

英語辞典にある日本語の発音 (2)

——『研究社新英和大辞典』第5版と第6版の比較——

小林 泰 秀

Pronunciation of Japanese Words in an English dictionary: Comparison between the Fifth and the Sixth Editions of *Kenkyusha's New English-Japanese Dictionary*

Yasuhide KOBAYASHI

1. は じ め に

『研究社新英和大辞典』(以下『研究社』)第5版の初版が1980年だったから、2002年3月に刊行された第6版は22年振りということになる。第5版についてはすでに拙稿(2002)で述べているので、本稿では第5版と第6版の違いについて述べてみたい。

両版に載せてある語の発音を本稿末に一括して記載した。第5版では発音記号を[]で囲み、第6版では / / で囲んであるので、本稿も両版を区別するために二つの記号を用いている。通常、単音 (phone) は [] で表わし、音素 (phoneme) は / / で表わすのであるが、一部の語を除いて、両版の発音には単音、音素の違いは見られない。音声記号の使用について、第5版では、「現在の言語学では個々の音は [] で囲み、音素は / / で囲んで示するのが慣行となっている」(p. XVI, 2. 音素) と [] を使用した理由について述べている。一方、第6版では、「ある言語におい

て同じ音とされる「音素」を基にして発音を示す方式は「簡易表記」と呼ばれ、現在の言語学・音声学では / / で囲んで示するのが慣例である」(p. Xiii, 1. 米音と英音)と音素表記の趣旨について述べている。しかし、『研究社』第6版に載っている /dʒú:ðou/「柔道」、/kəru:ti/「空手」の弾音 /d, t/ や、/iŋgu³rou/「イシグロ・カズオ」、/tempu³ra/「てんぷら」の二重母音 /u³/ などは簡略記号ではなく精密記号である。両版を比べてみても、第5版での [] 記号を第6版で / / 記号に変えた趣旨がはっきりしない。

2. 音 節 区 分

拙稿(2002)で論じているが、外国語である日本語の音節区分は、原則的に原語、つまり日本語の音節区分に従っている。次の語は、日本語の撥音、二重母音、拗音、促音、仮名文字を音節境界として区分している。

(1) 音節区分

- a. 撥音 :bon·sai「盆栽」、Shin·gon「真言宗」
- b. 二重母音 :gei·sha「芸者」、hai·ku「俳句」
- c. 拗音 :hon·cho「班長」、Ryu·kyu「琉球」
- d. 促音 :Is·sei「一世」、kak·ke「脚気」
- e. 仮名文字 :ko·i「鯉」、ne·tsu·ke「根付け」

英語辞典に載っている日本語には、日本語のかな文字区分ではなく、英語の音節区分に従っているものも多い。次の発音記号の [] は第5版、/ / は第6版の発音であるが、両版とも同じ発音のものは第6版の発音記号を用いて表わしている。

(2) 英語辞典の音節区分

a. 拗音

dai·my·o, dai·mi·o [dámíòu],[dámjòu] (第5版) 「大名」
/dámjòu/, /dámjəu/ (第6版)

ry·u /ríú:/ 「流」(武道の流派)

b. <tsu> の音節区分

ju·jit·su /dʒu:dʒítsu:/ 「柔術」

kat·su·ra tree /kát:sərə tri:/ 「[植物] カツラ」

sat·su·ma /sætsú:mə/, /sætsómə/ 「薩摩焼き」

cf. tsu·tsu·ga·mu·shi 「つつが虫」, zai·ba·tsu 「財閥」,
shi·a·tsu 「指圧」

c. その他

sam·i·sen [sæmàsèn] (第5版), /sæmàsèn/ (第6版) 「三味線」

ya·yoi /ja:jói/ 「弥生式の」

ha·bu·tai, ha·bu·tae /há:bətài/ 「羽二重」

(2a) は日本語の拗音を英語の発音から2音節に区分したものである。しかし、「大名」の発音が第6版では /dámjòu/ の拗音だけが記載されており、第5版にあった [dámíòu] という発音は削除されている。第6版にはその発音とは違って dai·my·o と音節区分されているが、発音からは dai·myo が正しい音節区分になる。一方、Ryu·kyu 「琉球」は、第5版では [ri(j)ú:kju:] と [rjú:kju:] のように ryu を1音節にする発音と2音節にする発音があるが、第6版では /ri(j)ú:kju:/ だけであり、拗音を1音節に発音する [rjú:kju:] は記載されていない。第6版の /ri(j)ú:kju:/ の発音からは、その音節区分が Ry·u·kyu となるべきなのであるが、原語の区分に従って Ryu·kyu のままである。これは /tóukiou/ が to·kyo と音節区分されているのと同様である。また、第6版に新しく加えられた ry·u /ríú:/ 「流」は2音節語である。このことから、/dámjòu/ の発音は

例外的であり、第6版では拗音が消えつつあることを暗示しているように思われる。

(2b) は、英語では子音群を二つの音節に分けることから、tsu を /t/ と /su/ に区分している例である。tsu·tsu·ga·mu·shi 「つつが虫」、zai·ba·tsu 「財閥」や第6版で新しく加えられた shi·a·tsu 「指圧」のように、/t/ と /su/ を分けない語もあり、第5版と同じく、第6版でも一貫性が見られない。

(2c) の sam·i·sen の音節区分は英語の発音に従ったものであり、他に例が見られない。「三味線」を sa·mu·rai /sém(j)orài/ 「侍」のように日本語の仮名単位に区切れないのは、第6版でも従来の古い音節区分を変えられないためであろう。(2c) の ya·yoi のように yoi を1音節にするのは、英語の発音に従ったものである。日本語では (1e) の ko·i のように o と i は別々の音節 (拍) とみなされる。しかし、ko·i は英語辞典では /kói/ と1音節に発音される。ya·yoi と ko·i は音節の分け方が異なっているにもかかわらず、両語共 oi は /óí/ と発音されている。2音節の /ko·i/ の発音は /kóoi/ となるはずである。(2c) の「羽二重」を原語では habutae と読み、<tae> は2音節である。ところが英語辞典では <tae> を /tai/ と1音節に発音している。これはその発音からのスペリングが ha·bu·tai に変わり、1音節になったものである。原語通り ha·bu·ta·e と4音節に区切ると /hà:bótái/ と発音されるはずである。他の辞典で「羽二重」のスペリングを見てみると、Webster は habutae と habutai の二つが記載されているが、OED は habutai が主要語であり、代替スペリングとして habutaye, habutae が載っている。ODP のように、発音どおりに habutai しか記載されていないものもある。同じ現象として、第5版の ukiyo-e [u:ki:jo(u)(j)éí] 「浮世絵」と第6版の ukiyo-ye /ù:kiou(j)éí/ がある。[jéí] の発音から <e> のスペリングが <ye> に変わったものである。

3. アクセント付与

拙稿 (2002) に、日本語に対するアクセント付与規則として、次の(3)と(4)を挙げた。<> は文字素 (grapheme) を表わす。

(3) 日本語への主強勢規則 (小林 2002:44)

- a. <VV> と <VN> の音節に強勢を付与する。
- b. うしろから 2 番目の音節に強勢を付与する。
- c. うしろから 2 番目の音節の母音が <a> か <o> でないなら、その前の音節に強勢を付与する。

(4) 第 2 強勢付与規則 (小林 2002:45)

$$V \rightarrow [2 \text{ stress}] / \left\{ \begin{array}{l} \text{_____ CV [1 stress]} \\ [1 \text{ stress}] \text{ CV _____} \end{array} \right\}$$

(3)と(4)の規則は次のように適用される。[S] は音節, [#] は語境界を表わす。

(5) 強勢規則の適用

- a. <VV> : ki·béi 「掃米二世」, ya·yói 「弥生式の」
zái·ba·tsu → zái·ba·tsù 「財閥」
<VN> : ki·rín 「麒麟」, pa·chín·ko 「パチンコ」
- b. <V>·S# : ga·gá·ku 「雅楽」, ki·mó·no 「着物」,
sha·ku·há·chi → shà·ku·há·chi 「尺八」
- c. <V>·<V>·S# : á·ke·bi 「あけび」, né·tsu·ke
hi·bá·ku·sha → hi·bá·ku·shà 「被爆者」

(3)~(5)はすでに拙稿 (2002) で述べたものであるが、アクセントの付与が第 5 版と第 6 版で変わった点について述べてみよう。主強勢規則

(3b)は後から2番目の音節にアクセントを付与するものであり、(3c)は後から2番目の音節が高母音の場合は、その前の音節に強勢を付与するものである。(3c)の規則が適用される強勢パターンと適用されない強勢パターンの二つのパターンを持っている語も多い。次の語は、語末第2音節が高母音のものである。

(6) 語末第2音節高母音のアクセント

- a. ai·kí·do 「合気道」(第6版)
- b. Bú·shi·do 「武士道」(第5版)
Bú·shi·dò (第6版米音), Bu·shí·do (第6版英音)
- c. hi·bá·ku·shà (第5版)
hì·ba·kú·sha (第6版米音), hi·bá·ku·sha (第6版英音)
- d. sá·shi·mi 「刺身」(第5版)
sa·shí·mi (第6版),
- e. sép·pu·ku, se·pú·ku 「切腹」(第5版)
se·pú·ku (第6版)
- f. A·kí·ta 「秋田犬」, Ì·shi·gú·ro 「イシグロ・カズオ」, No·gú·chi 「ノグチ・イサム」, Su·zú·ki method 「鈴木バイオリン教育法」(以上第6版)

(6a)~(6d)の語は、第6版では第1強勢が語末第2音節に付与されるものであり、(6e)は第6版に新しく載っている語である。(6b)~(e)の第5版の語で、語末第2音節に強勢があるのは *sepúku* のみである。(6f)は固有名詞ではあるが、強勢は語末第2音節にのみ付いている。このことから、第5版では(3c)の規則が(3b)の規則に優先していたが、第6版では(3b)が(3c)に優先していると言える。

以上のように第6版では語末第2音節にアクセントを付与する語が増えているのであるが、他の英語辞典のアクセントを見てみよう。次の *OED* は *Oxford English Dictionary* (Second Edition), *Webster* は *Webster's Third New International Dictionary*, *ODP* は *Oxford Dictionary of Pro-*

nunciation for Current English, そして *LPD* は *Longman Pronunciation Dictionary* (New Edition) の略である。

(7) a. *OED* : búshido

Webster : búshido

ODP : búshidò (米音), bushido (英音)

LPD : Búshidò (米音), Bushido (英音)

b. *OED* : sáshimi

Webster : sáshimi

ODP : sashími (米音), sáshimi (英音)

LPD : sashími

(7)の例から, *OED* と *Webster* は第5版のように語末第3音節に強勢を付し, *ODP* と *LPD* は第6版のように語末第2と第3音節に強勢を付している。

語末音節に第1強勢の付与される語が, 第6版に三つある。他の辞典と比べてみよう。次の『ジーニアス』は『ジーニアス英和大辞典』である。

(8) 語末音節のアクセント

a. Bú·shi·dò (第5版), Bù·shi·dó (第6版)

Bù·shi·dó (*ODP* (英音), *LDP* (英音), 『ジーニアス』(英音))

Bú·shi·dó (『ジーニアス』(米音))

b. Ya·má·to·è (第5版),

Yà·ma·to·é (第6版米音), Ya·má·to·è (第6版英音) 「大和絵」

c. zài·ba·tsù (第5版), zài·ba·tsú (第6版),

zai·bá·tsu (*OED*, *ODP*)

zái·ba·tsú (『ジーニアス』)

(8a)の *Bùshidó* のように語末の音節に第1強勢を置く発音は英音であるが、英音でも *Bushido* の方が主な発音である。*LPD* では、主要な発音 (main pronunciation) と代替発音 (alternative pronunciation) を明記しているので参考になる。他の辞典でも、二つの発音記号が載っている場合には、一般的に最初の方が主な発音であるから、*Bushido* が主なアクセントであり、*Bùshidó* は2番目に聞かれる発音ということになる。しかし、『ジーニアス』は語末に第1強勢を置く発音だけを記載している。

(8b)の *Yà·ma·to·é* のアクセントは、第6版米音の代替発音である。語末の <e> 「絵」に主強勢を付与するのは、「大和」の「絵」という意味だからであって、*ù·ki·yo·yé* 「浮世絵」、*chà·no·yú* 「茶の湯」と同じ強勢パターンになる。同様に、*Bùshidó* も「武士の道」の意味で「道」が主要形態素だと考えられる。

Ya·má·to は *OED* と *Webster* では <ma> に強勢が付いているが、*Yà·ma·to·é* のように <e> が付加すると、強勢が <ya> に移動している。第5版と第6版の強勢位置の違いを見てみよう。

(9) リズムの変化

- a. *u·ki·yo·é* (第5版) → *ù·ki·yo·é* (第6版)
- b. *Ya·má·to·è* (第5版) → *Ya·mà·to·é* → *Yà·ma·to·é* (第6版)
- c. *Salvátion Ármý* → *Sàlvation Ármý*,
transistor rádio → trãnsistor rádio
- d. *Koréa·Japán*, *Japán·Koréa* → *Jápan·Koréa*

(9a, b) の例は、弱強弱強のパターン (第5版) から、強弱弱強パターン (第6版) へのリズム変化を表わしている。強弱弱強パターンは全体から見ると強弱強パターンである。このパターンの変化はより良いリズムへの変化であり、(9c) の英語の例のように、リズム規則 (Rhythm Rule) (Lieberman & Prince 1977, Kiparsky 1979, Hayes 1984, etc.) の適用されたものである。外来語である日本語に、英語の規則を適用するよう

になった例であるが、ゆっくり話す場合のが第5版で、速く話す場合のが第6版のリズムである。普通のスピードで話す際には、*ukiyoé* の <yo> や *Yamátóé* の <to> がアクセントのある音節の谷間になる強弱強リズムよりも、*ukiyoé* や *Yamátóé* のように二つの音節が弱になり、語全体として強弱強パターンになる方が好リズムなのである。余談になるが、2002年のサッカーのワールドカップが日本と韓国で開催されたが、その際、両国名を英語で表わすのは *Korea-Japan* と *Japan-Korea* のどちらが良いのか問題になったようである。*Koréa-Japán/kəri:ədʒəpæn/* はアクセントのある音節の間に二つの軽音節があり好リズムになっている。一方、*Japán-Koréa /dʒəpænkəri:ə/* はアクセントのある音節の間に一つの軽音節しかなく、句全体としては好リズムとは言い難い。*Jápan-Koréa/ dʒəpænkəri:ə/* は好リズムであるが、その場合 *Japán/dʒəpæn/* とはアクセントも発音も変わってしまう。

第6版には (8d) の *zài·ba·tsú* の発音のみ記載されている。ところが *OED* と *ODP* は *zai·bá·tsu* である。筆者はどちらが一般的に使われているかのデータを持っているわけではないが、*zài·ba·tsú* のように語末の音節に第1強勢のある語は例外的である。

4. 発音

4.1 アクセントと発音

アクセントのある母音が、長母音あるいは二重母音に発音され、アクセントのない母音が短母音に発音され、更にアクセントのある母音でも子音群の前の母音が短母音に発音されるのは、英語の一般的な規則である (Chomsky and Halle 1968: 78)。日本語に英語の強勢規則が適用されているのか見てみよう。まず最初に、英語のように重音節に強勢の付与されている語を次に挙げよう。例はすべて第6版からのものである。特に米音、英音の明記のない発音は、米音、英音の両音に共通のものである。

(10) 重音節への強勢

a. 開音節

Bú·shí·dò/bú:ʃi:dòu/ (米音), Bu·shí·do/buʃi:dəu/ (英音),
 ka·bú·ki/kəbú:ki/, ká·bu·ki/ká:buki:/ (米音)「歌舞伎」
 Sat·sú·ma /sætsú:mə/ 「ウンシュウミカン」,
 tem·pú·ra /tɛmpú³rə/ (米音), /tɛmpúərə/ (英音)「てんぷら」

b. 閉音節

hón·cho /há(:)ntʃou/ (米音), /hóntʃəu/ (英音)「班長」,
 ín·rou /ínrou/ (米音), /ínrəu/ (英音)「印籠」,
 rén·ga /réŋgə/ 「連歌」, Sát·su·ma /sætsumə/,
 tém·pu·ra /tɛmpurà:/ (米音)

(10)の例では、強勢のある母音が長母音に発音され、強勢のない母音は短母音に発音されている。第6版でこの傾向の見られる語が、次のようにいくつかある。

(11) 非強勢短母音

- a. Búshidò [bú:ʃi:dòu] (第5版英音) → /bú:ʃi:dòu/ (第6版米音), Bu·shí·do /buʃi:dəu/ (第6版英音)
- b. fúji [f(ʃ)ú:dʒi:] (第5版) → /fú:dʒi/ (第6版)「富士絹」
- c. nuncháku [nu:ntʃá:ku:] (第5版) → /nʌntʃá:ku:/ (第6版)「ヌンチャク」

(11)の例を見る限りでは、第6版では長母音に強勢が付き、短母音には強勢が付かないように修正されたように思われるが、そのような語は少なく、ほとんどの語は第6版でも母音の長さは変わっていない。それとは逆に、非強勢母音であるにもかかわらず、第6版で長母音に発音されるようになった語も次のようにある。

(12) 非強勢長母音

- a. shíngon[ʃíngan] (第5版米音) → /ʃíŋga(:)n/ (第6版米音)
 b. shógun[ʃóugən] (第5版米音) → /ʃóugu:n/ (第6版米音),
 [ʃóugən] (第5版英音) → /ʃóugu:n/ (第6版英音)「將軍」
 c. tsunámi [tsuná:mi] (第5版英音) → /t(s)u:ná:mi/ (第6版米音, 英音)「津波」

(12)のように第6版で長母音に修正された語もあり、第6版で母音の長さについて大幅な修正があったとは言いきれない。外来語に対して、ある面では強勢のない母音を短母音に発音するという英語の音韻規則を適用しながら、他の面では母音をはっきりと発音するという原語の音韻的特徴をも表わしている。

第5版と第6版で異なる母音の発音の一つに語末の <i> がある。語末の <i> は、第5版では一般的に米音は [i], 英音は [ɪ] と区別されていたが、第6版では米音、英音共 /i/ になっている。第6版で英音を /i/ に変えたのは、語末では緊張母音になる英語の規則を適用したためであり、英語の *holy* や *study* の <y> も第6版では /i/ になっている。<i> の発音を『研究社』と他の辞典で見よう。

(13) 語末 <i> の発音

- a. akebi [á:kəbi] (第5版米音), [á:kɪbɪ] (第5版英音)
 /á:kəbi/ (第6版米音, 英音)「あけび」
obi [óubi] (第5版米音), [óubi] (第5版英音)
 /óubi/ (第6版米音), /óubi/ (第6版米音)「帯」
 b. obi /óubi/(OED), /óubi~óubi/(Webster), /óubi/(ODP),
 /óubi/(LPD)

(13)の例から、強勢のない語末の <i> は、最近の傾向として [i] に発音されていると言えよう。語末の母音の発音をアクセントのある場合と

ない場合で見てみよう。次の語で特に英音の明記のないのは米音である。

(14) 語末強勢母音

- a. <i># → /i:/: chórogì /tʃó:rougì/ 「チヨロギ」, tórii /tó:rii:/
「鳥居」
- b. <u># → /u:/: chànoyú /tʃá:noujú:/, ryú /riú:/
- c. <e># → /eɪ/: nétsukè /nétsokèi/, ùkiyo-yé /ù:kioʊ(j)éi/
「浮世絵」
- d. <o># → /ou/ (米音): Búshidò /bú:ʃidòu/, shákudò /ʃá:ku:dò/
「赤銅」
→ /əʊ/ (英音): Bùshidò /bò:ʃidəʊ/, shákudò /ʃæku:dəʊ/
- e. <a># → /ɑ:/: hániwà /há:nɪwà:/ 「壇輪」, témpurà /témporà:/
- f. <ai># → /aɪ/: bonsái /bounsái/ 「盆裁」, sámurai /sám(j)urái/
- g. <ei># → /eɪ/: Isséi /i:séi/ 「一世」, Kibéi /ki:béi/ 「帰米二世」
- h. <oi># → /ɔɪ/: Yayói /jɑ:jói/

(15) 語末非強勢母音

- a. <i># → /i:/: kámi /ká:mi/ 「神」, hàrakírì /há:rəkírì/ 「腹切り」
- b. <u># → /u:/: bunráku /bunrá:ku:/ 「文楽」, shiátsu /ʃiá:tsu:/
- c. <e># → /i/ ~ /eɪ/: kákke /kæki/ ~ /ká:keɪ/ 「脚氣」
sáke /sá:ki/ ~ /sá:keɪ/ (英音) 「酒」
- d. <o># → /ou/ (米音): dójo /dóʊdʒou/ 「道場」, ínro /ínrou/
→ /əʊ/ (英音): dójo /dəʊdʒəʊ/, ínro /ínrəʊ/
→ /ə/ (米音): kimóno /kəmóʊnə/ (米音に /kəmóʊnou/
もあり)
- e. <a># → /ə/: géisha /géiʃə/ 「芸者」, ikebána /ikeibána:/
- f. <ai># → /aɪ/: bónsai /bóʊnsai/, ítaitai /i:tai:tai/ 「イタイイ
タイ病」
- g. <ei># → /eɪ/: Íssei /i:sei/, Nísei /ní:sei/

(14)と(15)のスペリングと発音の関係を見てみると、(15)の *kákke* /kækki/, *sáke* /sá:ki/, *kimóno* /kəmóuna/ の代替発音を除いて、アクセントによって母音の発音が全く異なるのは、<i> <a> だけである。この二つの文字素の発音は、長母音には強勢が付与されるという英語の強勢規則に順じているが、他の文字素に関しては、長母音や二重母音と強勢の関係が明確ではない。これら長母音や二重母音は、英語の語彙ならば当然強勢の付与されるものである。(15b)の [u:] は英語の発音に付いたものであり、語末では(14b)と同じく緊張母音になる。英語では *bamboo* [bæmbu:], *tattoo* [tætu:] のように [u:] は常に強勢母音である。語末の非強勢母音 <u> は [ʊ], [u] に発音されることはないので、日本語の発音に対しても [u:] に発音している。このことから、日本語の発音については、一概に、英語強勢規則が適用されたものだとは言えない。実際次のように、強勢のない <i> と <a> も語末以外では長母音に発音されている。

(16) <i> と <a> の非強勢長母音

- a. *kóan* /kóua:n/ (米音) 「公案」, *Sanséi* /sa:nséi/ 「三世」,
sashími /sa:ʃi:mi/ (米音), *Yayói* /ju:jói/
 b. *Isséi* /i:séi/, *Niséi* /ni:séi/

日本語の場合、語のスペリング、つまり文字素に強勢が付与され、その強勢によって発音が決められているが、母音の長い短い(16)の語のように随意的であるものもある。一方、英語の強勢は、音節構造によって決められるので、スペリングに従って強勢を付与する日本語とは逆である。日本語への強勢と発音はそのスペリングから予想され、英語の強勢はその発音から予想されるのである。

4.2 米音と英音

米音と英音の違いを第6版で見てみよう。<a>が米音で /ɑ:/ に発音され、英音で /æ:/ に発音される語は第5版にもいくつかあるが、第6版では次の(17a)に見られるように、両音の違いが一層顕著になっている。しかし、一方では、(17b)~(17d)のように、両音に違いのない語も多い。

(17) <a> の発音

a. 米音 /ɑ:/, 英音 /æ/

- 1) 第5版は米音, 英音共 [ɑ:] と記載されていた語

kamikaze /kɑ:məkɑ:zi/ (米音), /kæmikɑ:zi/ (英音) 「神風」

koan /kóuɑ:n/ (米音), /kóuæ:n/ (英音)

sashimi /sɑ:ʃi:mi/ (米音), /sæʃi:mi/

shakudo /ʃɑ:ku:dóu/ (米音), /ʃæku:dəu/ (英音) (第6版新出語)

shiatsu /ʃiá:tsu:/ (米音), /ʃiætsu:/ (英音) (第6版新出語)

Yamato-e /jɑ:mɑ:touéi/ (米音), /jæmætəuéi/ (英音)

- 2) 第5版は米音, 英音共 [æ] と記載されていた語

harakiri /hà:rəkiri/ (米音), /hæ̀rəkiri/ (英音)

- 3) 第5版も米音 [ɑ:], 英音 [æ] と記載されていた語

kakemono /kɑ:kəmóunou/ (米音), /kækiméunou/ (米音)

「掛け物」

b. 米音, 英音共 /ɑ:/

akebi /á:kəbi/, Bunraku /bunrá:ku:/, chanoyu /tʃá:noujú:/,

habu /há:bu:/ 「ハブ」, habutae /há:bətài/, haniwa /há:niwà:/,

hibachi /hibá:tʃi/ 「火鉢」, ikebana /ikeibá:nə/, kaki /ká:ki/

「柿」,

katsura /ká:tsərə tri:/, Kawasaki disease /ká:wəsá:ki diziz:/

「川崎病」, mikado /məká:dou/ 「帝」, origami /ò(:)rigá:mi/

「折り紙」, raku /rɑ:kʊ:/ 「樂焼き」, sake /sɑ:ki/, shakuhachi /ʃɑ:kohɑ:tʃi/, wasabi /wɑ:səbi/ 「ワサビ」, Yayoi /jɑ:jɔi/

c. 米音, 英音共 /ɑ:/ と /æ/

kakke /kɑ:ki/ ~ /kækeɪ/, tatami /tɑ:tɑ:mi/ ~ /tætɑ:mi/ 「畳」, yagi /jɑ:gi/ ~ /jægi/ 「八木アンテナ」

d. 米音, 英音共 /æ/

karaoke /kæriouki/ 「カラオケ」(第6版新出語), samisen /sæməsɛn/, samurai /sæm(j)urɑi/, Satsuma /sætsumə/

e. 米音 /ɑ:/, 英音 /ɑ:/ と /æ/

sukiyaki /sù:kijɑ:ki/ (米音), /sù:kijɑ:ki/ ~ /sokijæki/ (英音) 「すき焼き」, tanka /tɑ:ŋkə/ (米音), /tɑ:ŋkə/ ~ /tæŋkə/ (第6版英音) 「短歌」

f. 米音 /æ/ と /ɑ:/, 英音 /æ/

yakitori /jæ:kitɔri/ ~ /jɑ:kitɔri/ (米音), /jækitɔri/ (英音) 「焼き鳥」(第6版新出語)

(17a)の例を見ると, 米音は /ɑ:/ に, 英音は /æ/ にと区別の方向に向かっているように思えるが, 他の例に見られるように, 米音, 英音で区別されない語も多い。<a>の発音に /ɑ:/ が断然多いのは, 外国語としての日本語に近い発音とみなされているからである。

<o>の語末の発音は(14d)に(15d)挙げたので, 語末以外の位置での米音と英音の違いを見てみよう。次の発音例はすべて第6版からのものである。

(18) <o> の発音

a. 米音 /ou/, 英音 /əʊ/

dojo /dóudʒou/ (米音), /dəʊdʒəʊ/ (英音)

kakemono /kà:kəmónou/ (米音), /kækimónəʊ/ (英音)

「掛け物」

karaoke /kærióuki/ (米音), /kæriəuki/ (英音)

kimono /kimónə/ (米音), /kimónəʊ/ (英音)

koan /kóu:n/ (米音), /kəʊæn/ (英音)

koto /kóutu/ (米音), /kəʊtəʊ/ (英音) 「琴」

Noguchi /nougú:tʃi/ (米音), /nəʊgú:tʃi/ (英音)

obi /óubi/ (米音), /əʊbi/ (英音) 「帯」

romaji /róumədʒi/ (米音), /rəʊmədʒi/ (英音) 「ローマ字」

Shogun /jóugun/ (米音), /jóug:n/ (英音)

shoji /jóudʒi/ (米音), /jóudʒi/ (英音) 「障子」

tofu /tóufu:/ (米音), /təʊfu:/ (英音) 「豆腐」

tokonoma /tòukənómə/ (米音), /təʊkənəʊmə/ (英音) 「床

の間」

ukiyo-ye /ù:kio(j)éi/ (米音), /ù:kiə(j)éi/ (英音)

Yamato-e /jù:ma:touéi/ (米音), /jæmətəʊéi/ (英音)

Yokohama bean /jóukəhà:mə bí:n/ (米音), /jóukə(ʊ)hà:mə

bí:n/ (英音) 「ハッシュウマメ」

b. 米音 /ou/ ~ /ɑ(:)/, 英音 /əʊ/ ~ /ɔ/

bonsai /bóunsaɪ/ ~ /bá(:)nsaɪ/ (米音), /bəʊnsaɪ/ ~

/bónsaɪ/ (英音)

c. 米音 /ɔ(:)/ ~ /ɑ(:)/, 英音 /ɔ(:)/

Bon /bó(:)n/ ~ /bá(:)n/ (米音), /bó(:)n/ (英音) 「盆」

hokku /hó(:)ku:/ ~ /há(:)ku:/ (米音), /hóku:/ (英音) 「発句」

origami /ó(:)rigá:mi/ ~ /à(:)rigá:mi/ (米音), /ò(:)rigá:mi/

(英音)

d. 米音 /ɑ(:)/, 英音 /ɔ/

hōncho /há(:)ntʃou/ (米音), /hóntʃəu/ (英音)

Nippon /nipá(:)n/ (米音), /nípən/ (英音) 「日本」

Shingon /ʃiŋga(:)n/ (米音), /ʃiŋgən/ (英音)

e. 米音, 英音共 /ɔ:/

chorogi /tʃó:rougi:/, Fujimori / fu:dʒimó:ri/ 「フジモリ (前バ

ルー大統領) 」, satori /sətó:ri/ 「悟り」, torii /tóri:ri:/, yakitori

/jæ:kitóri:/, zori /zó:ri/ 「草履」

(18a) の語のように, <o> は /ou/ と /əu/ に発音される場合が多い。(18b) の bonsai の <o> も /ou/ と /əu/ に発音されているが, 閉音節の <o> が /ou/ と /əu/ に発音されるのは, 英語では稀である。/ou/ と /əu/ の発音は, 英語の音節構造を無視した, 日本語のスペリング <o> に対する発音である。英語では bone /boun/, bony /bouni/, bonus /bounəs/ のようにスペリングが <onV> の語は <o> を /ou/ と発音するが, bond /ba(:)nd/ (米音), /bónd/ (英音), bonfire /bá(:)nfaiə/ (米音), /bónfaiə/ (英音), bonnet /bá(:)nit/ (米音), /bónit/ (英音) のように, スペリングが <onC> の語は <o> を /ou/ と /əu/ に発音しない。

(18b)~(18d)では, 米音と英音の違いが /ɑ(:)/ と /ɔ/ にあるが, これは英語に対する米音と英音の違いでもある。/ɔ/ が英音では子音群の前 (bonsai) や無声音の前 (hokku) や非強勢の位置では短母音に発音されているのが分かる。(18e) は <or> の発音であるが, 米音と英音が同じである。<or> の発音として /ɔ:r/ のみを載せているのは第6版になってからである。第5版では, 英音は [ɔ:] のみであるが, 米音には次の(19)のように [ɔ:] と [o:] の二つの発音が記載されていた。[o:] の発音を第6版から削除したのは, (19b)の英語の発音にも同様に見られる。

(19) 第5版と第6版の <or> の発音

a. 日本語

chorogi [tʃó:ro(u)gi:] ~ [tʃó:ro(u)gi:] (第5版米音)

/tʃó:ro(u)gi:/ (第6版)

satori [sətó:ri] ~ [sətó:ri] (第5版米音), /sətó:ri/ (第6版)

torii [tót:ri:] ~ [tót:ri:] (第5版米音), /tót:ri:/ (第6版)

zori [zót:ri] ~ [zót:ri] (第5版米音), /zót:ri/ (第6版)

b. 英語

door [dɔə] ~ [dɔə] (第5版米音), /dɔə/ (第6版米音)

more [mɔə] ~ [mɔə] (第5版米音), /mɔə/ (第6版米音)

store [stɔə] ~ [stɔə] (第5版米音), /stɔə/ (第6版米音)

アメリカ英語には [ɔə] の発音は現に存在しているのであるが、それを方言あるいは非標準的発音とみなし、第6版から削除したのであろう。それと同じ理由で日本語の [o:] の発音も削除したと思われるが、第1の理由は [o] の長母音 [o:] の発音は英語話者にとって難しいことにある。door を [dɔə] と発音する人でも [dɔ:ə] の発音は難しく、二重母音の [douə] なら発音できる。

第5版では、無声歯茎破裂音にのみ弾音の発音記号 [t̥] を用いていたが、第6版では無声音と有声音の両方の弾音 /t̥/, /d̥/ が載っている。『研究社』ではたたき音と呼んでいるが、弾音が一般的であるので、本稿では弾音と呼ぶ。『研究社』では /t̥/ と /d̥/ の二つの音声記号を用いているが両音には発音上違いはないので、二つの発音記号は日本語の音素の違いを表わすためである。弾音は米音のみであるが、次のように非強勢母音の前に起こっている。

(20) 弾音

a. Akita /əki:t̥ə/, karate /kə:r̥ə:t̥i/ 「空手」, koto /kó:t̥ou/, Seto (ware) /sé:t̥ou (wéə)/ 「瀬戸焼き」, Shinto /ʃín:t̥ou/ 「神道」, Yamato-e /jà:ma:t̥ouéi/

b. aikido /aiki:ðou/ 「合気道」, judo /dʒú:ðou/ 「柔道」,

mikado /mɪkɑːdɔʊ/, udo /úːdɔʊ/ 「ウド」

弾音化しない /t/ に itai-itai /iːtaiːtai/ 「イタイイタイ病」があるが、
[iːtʰaiːtʰai] と帯気音に発音されるのであろう。

次に /y/ の発音を見てみよう。

(21) <y> の発音

a. 頭子音の /j/

sho·yu /ʃójuː/ (米音) 「醤油」, Ya·yoi /jɑːjóɪ/, yen /jén/
「円」

b. 拗音の 2 音節発音

Ryu·kyu /riú:kjuː/, To·kyo·ite /tókiouàit/ 「東京都民」

c. <y> の両音節化

Ryu·kyu /rijú:kjuː/, sho·yu /ʃójuː/ (英音)

d. <y> の再音節化

sho·yu /ʃóiuː/ (英音)

e. <y> 削除

u·ki·yo·ye /ùːkiou(j)éi/

(21a) の <y> は音節頭子音 (onset) であり、/j/ に発音される。(21b) は <CyV> の拗音が /CiV/ と、2音節に発音されるものである。(21c) の Ryukyu と shoyu の発音は、<y> を二つの音節に結びつけたものである。<y> は頭子音では /j/ に発音され、核音 (nucleus) では /i/ に発音される。

英語には /u/ の前に /j/ を挿入することがあるが、日本語にも適用されている。

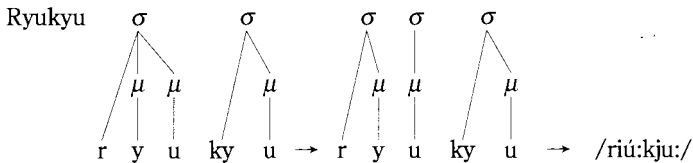
(22) /j/ 挿入

fu·ji [fjú:dzi:] (第5版), /fú:dzi/ (第6版), sa·mu·rai
/sám(j)orài/, fu·ton /fjú:ta(:)n/ (第6版新出語)

(22)の語は /j/ が /u/ の前で随意的に挿入されているが, fuji は第6版では /j/ が挿入されない。/j/ の挿入は, 例えば英語の fuze /fju:z/ や Samuel/sæmjʊəl/ のような語への類推であろう。

Hayes (1989) のモーラ音韻論 (moraic phonology) に従い, /i/ に発音される <y> をモーラとし, 日本語のモーラ単位から英語の音節単位を形成する過程を表わしてみよう。(21b)の Ryukyu の <ryu> は次のように2音節化 (bisyllabification) される。次の [σ] は音節, [μ] はモーラを表わす。

(23) <yu> の2音節化

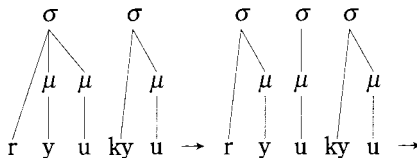


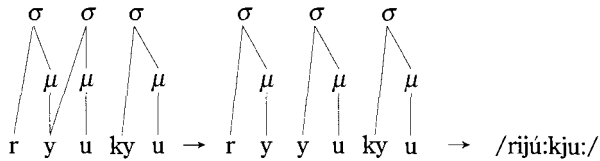
Ryu の <y> は基底形ではモーラであり, kyu の <y> は頭子音でありモーラではない。Ryu も kyu も日本語では同じ拗音でありながら, kyu が2音節にならないのは, 原語の発音を保持しているのであろう。第5版には2音節とも拗音の [rjú:kju:] が載っている。/riú:kju:/ の発音から見ると, 強勢のある /u:/ は単独の音節とみなされる。

(21c)の Ryukyu と shoyu の <y> が二つの音節に結びつく両音節化 (ambisyllabification) は Kahn (1976) によって提案されたものであるが, 本稿ではモーラ音韻論で表示する。

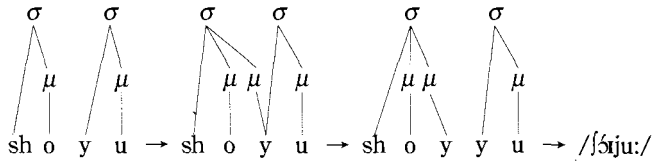
(24) <y> の両音節化

a. Ryukyu





b. shoyu



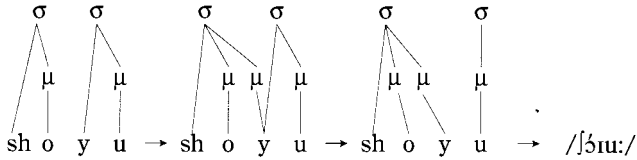
(24a)は <yu> の2音節化の後に <y> の両音節化が行なわれたものである。Ryukyu の <y> はうしろの音節の頭子音となっているが、(24b)の shoyu の <y> は前の音節とも結びついている。<y> が頭子音になるか核音になるかは、母音の前にあるかうしろのあるかによる。

(22)の samurai /sæm(j)urái/ は <u> の前に /j/ を挿入しているので、同様に(21c)の Ryu·kyu /rijú:kju:/ も /j/ 挿入と考えられよう。しかし、この場合の /j/ は文字素 <y> に対応する発音とし、両音節化と考えるのが妥当であろう。

(21d) の shoyu は、/ʃju:/ と発音されているので、shoy·u と2音節に分けられる。sho·yu の <y> を左の音節に移動する再音節化 (resyllabification) は、Selkirk (1982) によって示されたものであるが、それをモーラ音節論で表わすと次のようになる。

(25) 再音節化

shoyu



Selkirk の再音節化は、強勢のない音節の頭子音、例えば /ju/ の /j/ を左の音節に移すのであるが、移動先では音節の尾子音 (coda) 音になる。(25)のように核音 (nucleus) <o> と脚韻を形成して二重母音になる例は Selkirk にはないが、<y> は尾子音になることはないので、前の母音と二重母音を形成する以外にない。

5. お わ り に

『研究社新英和大辞典』の第5版と第6版を比較しながら、日本語の発音を見てきた。基本的には両版に大幅な違いは見られないのであるが、一貫性に欠けていた発音を整理しようという試みは感じられた。しかし、長い間記載されてきた発音を、現実には合わないからといって削除、修正するのは容易なことではないのだろう。第6版では、samurai「侍」や tsutsugamusi「つつが虫」のように、複数の発音例が極端に少なくなっている語があるが、それはアクセントの違いがなくなったためである。逆に tempura「てんぷら」のように、第6版で発音例の多くなっているものもある。二重母音の発音を加えたためである。しかし、このような例は稀であり、第5版の発音の多様性は第6版でも変わってはいない。

辞典は、再版によって語数が減るよりも増えるのが常である。『研究社』も第6版に多くの日本語が加えられ、削除されたのは gagaku「雅楽」ぐらいである。もっと新語を加えても良かったのではないだろうか。「ふぐ」、「下駄」、「仮名」、「漢字」、「ラーメン」など良く使われる語が加

えられていない。『研究社』には都市、人名といった固有名詞が少ない。これは日本で出版されている辞典だからであって、ODPやLPDのように最近外国で出版された辞典には固有名詞が多くなっている。

『研究社新英和大辞典』に載っている日本語の音声記号

第5版の発音は [] で表記し、第6版の発音は / / で表記している。太字は第6版に新出の語である。米音と英音の中間の発音は、両音に共通の発音である。

	米音	米/英音	英音	日本語
ai·ki·do	[àikidóu]		[àikidóu]	合気道
	/àikí:ðou/		/àikí:ðəu/	
Ai·nu		[áinu:]		アイヌ族
		/áinu:/		
A·ki·ta	/əkí:tə/		/əkí:tə/	秋田犬
a·ke·bi	[á:kəbi]		[á:kɪbi]	あけび
	/á:kəbi/		/á:kɪbi/	
			/á:kəbi/	
Bon	[bó(:)n]		[bón]	盆
	/bó(:)n/		/bó(:)n/	
	/bá(:)n/			
bon·sai	[bousái]		[bónsai]	盆栽
	[bansái]		[báonsai]	
	[bóonsai]			
	[bánsai]			
	/bounsái/		/bónsai/	
	/ba(:)nsái/		/báonsai/	
	/bóonsai/			
	/bá(:)nsai/			

Bun·ra·ku, bun·ra·ku	[bunrɑ:kʊ:] /bunrɑ:kʊ:/		文楽
Bu·shi·do	[bʊ:ʃidʊu] [bʊ:ʃidʊu] /bʊ:ʃidʊu/ /bʊ:ʃidʊu/	[bʊ:ʃi:dʊu] /bʊ:ʃi:dʊu/	武士道
cha·no·yu	[tʃɑ:noujʊ:] /tʃɑ:noujʊ:/	[tʃɑ:nəujʊ:] /tʃɑ:nəujʊ:/	茶の湯
cho·ro·gi	[tʃʊ:ro(ʊ)gi:] [tʃʊ:ro(ʊ)gi:] /tʃʊ:rougi:/	[tʃʊ:rə(ʊ)gi:] /tʃʊ:rə(ʊ)gi:/	[植物] チョロギ
dai·my·o, dai·mi·o	[dɑ:miðʊ] [dɑ:mjʊu] /dɑ:mjʊu/	[dɑ:miɾʊ] [dɑ:mjəʊ] /dɑ:mjəʊ/	大名
do·jo	[dʊudʒʊu] /dʊudʒʊu/	[dʊudʒəʊ] /dʊudʒəʊ/	道場
fu·ji	[f(ʃ)ʊ:dʒi:] /fʊ:dʒi:/		富士絹
Fu·ji·mo·ri	/fʊ:dʒimʊ:ri/ /fʊ:dʒəmʊ:ri/	/fʊ:dʒimʊ:ri/	ヘルーの日系 政治家
ga·ga·ku, Ga·ga·ku	[gɑ:gɑ:kʊ:]		雅楽
第6版になし			
gei·sha	[gɛi:ʃə] [gi:ʃə] /gɛi:ʃə/ /gi:ʃə/	[gɛi:ʃə] /gɛi:ʃə/	芸者
go, Go	[gʊu] /gʊu/	[gʊu] /gʊu/	碁
go·bang	[gʊubæŋ]	[gʊubæŋ]	五目ならべ

	/goubæŋ/	/goubæŋ/	
ha·bu	[há:bu:]		[植物] ハブ
	/há:bu:/		
ha·bu·tai, ha·bu·tae	[há:butài]		羽二重
	/há:bətài/		
hai·ku	[háiku:]		俳句
	/háiku:/		
ha·ni·wa	[há:nɪwà:]	[há:nɪwà:]	埴輪
	[há:nəwà:]		
	/há:nɪwà:/	/há:nɪwà:/	
	/há:nəwà:/		
ha·ra·ki·ri	[hæ̀rəkíri]	[hæ̀rəkíri]	腹切り
	[hæ̀rikíri]		
	/hà:rəkíri/	/hæ̀rəkíri/	
	/hè:rəkíri/	/hæ̀rəkíəri/	
hi·ba·chi	[hɪbá:tʃi]	[hɪbá:tʃi]	火鉢
	/hɪbá:tʃi/		
hi·ba·ku·sha	[hɪbá:kuʃá:]		被爆者
	/hɪ:bəkú:ʃə/	/hɪbá:kuʃə/	
hok·ku	[hók(:)ku:]	[hókku:]	発句
	[háku:]		
	/hók(:)ku:/	/hókku:/	
	/há(:)ku:/		
hon·cho	[hántʃou]	[hóntʃəu]	班長
	/há(:)ntʃou/	/hóntʃəu/	
i·ke·ba·na	[ikeibá:nə]		生花
	[i:keibá:nə]		
	[i:kəbá:nə]		
	[i:kɪbá:nə]		

		/ikerbú:nə/ /i:kerbú:nə/ /i:kiɾbú:nə/	
in·ro	[ínrou] /ínrou/	[ínɾəu] /ínɾəu/	印籠
I·shi·gu·ro	/iʃigó ^ɾ rou/	/iʃigó ^ɾ əɾəu/	イシグロ・カズオ
I·shi·ha·ra test	[iʃihá:rətèst] /iʃi:há:rətèst/		石原式色盲検査法
Is·sei	[i:séi]		一世
Is·sei	[i:sei] /i:séi/ /i:sei/		
i·tai·i·tai	[i:taí:taí] /i:taí:taí/		イタイイタイ病
ju·do	[dʒú:dou] /dʒú:ðou/	[dʒú:dəu] /dʒú:dəu/	柔道
ju·do·ist	[dʒú:douist] [dʒú:douəst] /dʒú:ðouist/ /dʒú:ðouəst/	[dʒú:dəuist] /dʒú:dəuist/	柔道家
ju·jit·su		[dʒu:dʒítsu:] /dʒu:dʒítsu:/	柔術
ju·jut·su		[dʒu:dʒótsu:] /dʒu:dʒótsu:/	柔術
ka·bu·ki	[kəbú:ki]	[kəbú:ki]	歌舞伎
Ka·bu·ki	[kəbóki] [ká:buki:] /kəbú:ki/	/kəbú:ki/	

	/kɑ:bú:ki/		
	/kɑ:bokɪ:/		
ka·ke·mo·no	[kɑ:kimóunou]	[kækimóunəu]	掛け物
	/kɑ:kəməunou/	/kækimóunəu/	
ka·ki	[kɑ:ki]	[kɑ:ki]	柿
	/kɑ:ki/		
kak·ke	[kæki]	[kæki]	脚気
	[kɑ:keɪ]	[kɑ:keɪ]	
	/kæki/		
	/kɑ:keɪ/		
ka·mi	[kɑ:mi]	[kɑ:mɪ]	「神道の」神
	/kɑ:mi/		
ka·mi·ka·ze	[kɑ:miká:zi]	[kɑ:miká:zi]	神風
	[kɑ:məká:zi]		
	/kɑ:məká:zi/	/kæmiká:zi/	
		/kæməká:zi/	
ka·ra·o·ke	/kæriúoki/	/kæriúoki/	カラオケ
	/kèriúoki/		
	/kæɾəúoki/		
ka·ra·te	[kərá:ɰi]	[kərá:ɰi]	空手
		[kæɾá:ɰi]	
	/kərá:ɰi/	/kərá:ɰi/	
		/kæɾá:ɰi/	
ka·ra·te·ist	[kərá:ɰiɪst]	[kərá:ɰiɪst]	空手家
	[kərá:ɰiæst]	[kæɾá:ɰiɪst]	
	/kərá:ɰiɪst/	/kərá:ɰiɪst/	
		/kæɾá:ɰiɪst/	
kat·su·ra tree	[kɑ:tsəɾə tri:]		[植物]カツラ
	/kɑ:tsəɾə tri:/		

Ka·wa·sa·ki disease	/kà:wəsá:ki dizi:z/	川崎病
Ki·bei, ki·bei	[ki:béi] /ki:béi/	婦米二世
ki·mo·no	[kimóunə] [kəməúnə] [kimóunou] /kimóunə/ /kəməúnə/ /kimóunou/ /kəməúnou/	着物
ki·rin	[ki:rín] /ki:rín/	麒麟
ko·an	[kóua:n] /kóua:n/	(禪宗の)公案
ko·i	[kóɪ] /kóɪ/	[魚類] コイ
ko·jic acid	[kóudʒikæ̀sɪd] /kóudʒikæ̀sɪd/	こうじ酸
ko·to	[kóutɔ̃u] /kóutɔ̃u/	琴
Ku·ro·shi·o	[kuróʃiðu] /kuróʃiðu/	黒潮
mi·ka·do	[mɛká:ðou] /mɛká:ðou/ /mɛká:ðou/	帝
ne·tsu·ke	[néts(ɔ̃)ki] [nétskeɪ] [nétsukèɪ] /nétski/	根付け
	/nétskeɪ/	

	/nétsukèi/	/nétski/	
		/nétsuki/	
		/nétsukei/	
nin·ja	/níndʒə/		忍者
Nip·pon	[nípán]	[nípən]	日本
	[nípan]		
	/nípá(:)n/	/nípən/	
	/nípə(:)n/		
Nip·pon·ese	[nípəni:z]	[nípəni:z]	日本人 (の)
	[nípəni:s]		
	/nípəni:z/	/nípəni:z/	日本人 (の)
	/nípəni:s/		
Nip·po·ni·an	[nípəuniən]	[nípəunjən]	日本人 (の)
		[nípəuniən]	
Ni·sei, ni·sei	[ni:séi]		二世
	/ni:séi/	/ni:séi/	
	/ni:sei/		
No·gu·chi	/noʊgú:tʃi/	/nəʊgú:tʃi/	ノグチ・イサム
No, no	[núʊ]	[néʊ]	能
	/núʊ/	/néʊ/	
nun·cha·ku	[nu:ntʃá:ku:]		ヌンチャク
	/nʌntʃá:ku:/		
obi	[óubi]	[óubi]	帯
	/óubi/	/óubi/	
o·ri·ga·mi	[ó(:)rəgá:mi]	[òrigá:mi]	折り紙
	[àrəgá:mi]		
	/ò(:)rɪgá:mi/	/ò(:)rɪgá:mi/	
	/ò(:)rəgá:mi/	/ò(:)rəgá:mi/	
	/à(:)rɪgá:mi/		

	/ù(:)rægá:mi/		
pa·chin·ko	[pətʃɪŋkou]	[pətʃɪŋkəu]	パチンコ
	/pətʃɪŋkou/	/pətʃɪŋkəu/	
ra·ku ware	[rú:ku: wèə]		楽焼き
ra·ku	/rú:ku:/		
ren·ga	[réŋgə]		連歌
	/réŋgə/		
ro·ma·ji	[róumədʒi]	[róumədʒi]	ローマ字
	/róumədʒi/	/róumədʒi/	
ry·u	/riú:/		流 (武道の流派)
Ryu·kyu	[ri(j)ú:kju:]	[ri(j)ú:kju:]	琉球諸島
Islands	[rjú:kju:]	[rjú:kju:]	
	/ri(j)ú:kju:/		
sa·ke	[sá:ki]	[sá:kɪ]	酒
	/sá:ki/	/sá:ki/	
		/sá:kei/	
sam·i·sen	[sæməsèn]	[sæmɪsèn]	三味線
	/sæməsèn/	/sæmɪsèn/	
sa·mu·rai	[sæm(j)orài]	[sæm(j)orài]	侍
	[sá:morài]		
	[sæm(j)orài]		
	[sá:morài]		
	/sæm(j)orài/		
San·sei, san·sei	[sa:nséi]		三世
	/sa:nséi/		
	/sá:nsei/		
sa·shi·mi	[sá:ʃəmi]	[sá:ʃɪmi]	刺身
	/sa:ʃi:mi/	/sæʃi:mi/	

		/sə'í:mi/	
sa·to·ri	[sətó:ri] [sətó:ri]	[sətó:ri]	悟り
		/sətó:ri/	
sat·su·ma	[sætsú:mə] [sætsomə]		薩摩焼き
Sat·su·ma		/sætsú:mə/	ウンシュウ ミカン
		/sætsomə/	
sen	[sén] /sé'n/		銭
sep·pu·ku	[sepú:ku:] [sépu:kù:] /sepú:ku:/		切腹
Se·to (ware)	[séɾtu (wèʔ)] [séɾtu-] /séɾtu (wèʔ)/ /séɾtu-/	[séɾtəu (wèʔ)] [séɾtəu-] /séɾtəu (wèʔ)/ /séɾtəu-/	瀬戸焼
sha·ku·do	/ʃà:ku:dóu/	/ʃæku:dəu/	赤銅
sha·ku·ha·chi	[ʃà:kohá:tʃi] /ʃà:kohá:tʃi/	[ʃà:kohá:tʃi]	尺八
shi·a·tsu	/ʃiá:tsu:/	/ʃiætsu:/	指圧
Shin·gon	[ʃíngan] [ʃí:ngan] /ʃíngə(ː)n/ /ʃí:ngə(ː)n/	[ʃíngən] [ʃí:ngən] /ʃíngən/ /ʃí:ngən/	真言宗
Shin·to	[ʃíntou] /ʃíntou/	[ʃíntəu] /ʃíntəu/	神道
sho·gun,	[ʃóugʌn]	[ʃóugʌn]	将軍

Sho·gun	[ʃóugən] /ʃóugʌn/ /ʃóugon/ /ʃóugu:n/ /ʃóugən/	[ʃóugən] /ʃóugʌn/ /ʃóugu:n/ /ʃóugən/	
sho·ji	[ʃóudʒi] /ʃóudʒi/	[ʃóudʒi] /ʃóudʒi/	障子
sho·yu	/ʃóuju:/	/ʃóiju:/ /ʃóiu:/	醤油
su·ki·ya·ki	[skijá:ki] [sòkijá:ki] [sù:kijá:ki] /sù:kijá:ki/ /sòkijá:ki/ /skijá:ki/	[sòkijæki] [sù:kijæki] [sòkijá:ki] /sù:kijá:ki/ /sòkijá:ki/ /sòkijæki/	すき焼き
su·mo	[sú:mou] /sú:mou/	[sú:məu] /sú:məu/	相撲
su·shi	[sú:ʃi]	[sú:ʃi] /sú:ʃi/	寿司
Su·zu·ki Method		/səzú:ki mɛθəd/	鈴木バイオリン 教育法
tai		[tái] /tái/	鯛
tan·ka		[tá:ŋkə] /tá:ŋkə/ /tæŋkə/	短歌
ta·ta·mi	[ta:tá:mi] [tætá:mi] [tətá:mi]	[ta:tá:mɪ] [tætá:mɪ] [tətá:mɪ] /ta:tá:mi/	畳

	/tætá:mi/		
	/tətá:mi/		
tem·pu·ra	[tém̩pərə]		てんぷら
	[tém̩pərə:]		
	[tém̩pórə]		
	/tém̩pərə/	/tém̩pərə/	
	/tém̩pərə:/	/tém̩pərə:/	
	/tém̩pórə/		
to·fu	[tóufu:]	[tóufu:]	豆腐
	/tóufu:/	/tóufu:/	
to·ko·no·ma	[tòukənóumə]	[tòukənóumə]	床の間
	/tòukənóumə/	/tòukənóumə/	
to·kyo·ite	[tòukiouàit]	[tòukjəuàit]	東京都民
		[tòukjəuàit]	
	/tòukiouàit/	/tòukjəuàit/	
to·ri·i	[tó:ri:]	[tó:ri:]	鳥居
	[tó:ri:]		
	/tó:ri:/		
tsu·na·mi	[(t)suná:mi]	[tsuná:mi]	津波
	[(t)su:ná:mi]		
	/ (t) su:ná:mi/		
	/ (t) su:némi/		
tsu·tsu·ga·mu·shi	[(t)sù:tsogámú:ʃi]	[tsù:tsogámú:ʃi]	つつが
disease	[tù:tsogámú:ʃi]	[tsù:tsogá:muʃi]	虫病
	[tù:tsogá:muʃi]		
	/ (t) sù:tsogámú:ʃi/		
u·do	[ú:dou]	[ú:dəu]	[植物] ウド
	/ú:dou/	/ú:dəu/	
u·ki·yo-e	[u:ki:jo(ɔ)(j)éi]	[u:ki:jo(ɔ)(j)éi]	浮世絵

u·ki·yo·ye	/ù:kiou(j)éi/	/ù:kiəu(j)éi/	
wa·sa·bi	[wá:səbi]	[wá:səbi]	ワサビ
		/wá:səbi/	
ya·gi	[já:gi]	[já:gi]	八木アンテナ
	[já:gi]	[já:gi]	
		/já:gi/	
		/já:gi/	
ya·ki·to·ri	/jà:kitó:ri/	/jà:kitó:ri/	焼き鳥
	/jà:kitó:ri/		
Ya·ma·to·e	[ja:má:touèi]	[ja:má:touèi]	大和絵
	/jà:ma:touéi/	/jà:ma:touéi/	
Ya·yoi	[ja:jói]		弥生式の
	/ja:jói/		
yen	[jén]		円
	/jén/		
Yo·ko·ha·ma bean	[jóukəhá:mə bí:n]	[jèukə(ɔ)há:mə bí:n]	ハッシュウマメ
	/jóukəhá:mə bí:n/	/jèukə(ɔ)há:mə bí:n/	
zai·ba·tsu	[záiba:tsù:]		財閥
	/zàiba:tsú:/	/zàiba:tsú:/	
Zen	[zén]		禅
	/zén/		
zo·ri	[zó:ri]	[zó:ri]	草履
	[zó:ri]		
		/zó:ri/	

使 用 辞 典

- 『ジーニアス英和大辞典』(2001)
 『研究社新英和大辞典』第5版(2000)
 『研究社新英和大辞典』第6版(2002)
Longman Dictionary of Contemporary English (1993)
Longman Pronunciation Dictionary, New Edition (2000)
Oxford Dictionary of Pronunciation for Current English (2001)
The Oxford English Dictionary, Second Edition, CD, ver 3 (2002)
Webster's Third New International Dictionary (1993)

参 考 文 献

- Broselow, E. (1995) Skeletal Positions and Moras. *The Handbook of Phonological Theory*, ed. by J. A. Goldsmith, 175–205. Blackwell.
- Hayes, B. (1984) The Phonology of Rhythm in English. *Linguistic Inquiry* 15, 33–74.
- Hayes, B. (1989) Compensatory Lengthening in Moraic Phonology. *Linguistic Inquiry*, 20, 2. 253–306.
- Chomsky, N. and M. Halle. (1968) *The Sound Pattern of English*. Harper & Row.
- Kahn, D. (1976) *Syllable-Based Generalizations in English Phonology*. Doctoral dissertation, MIT.
- Kiparsky, P. (1979) Metrical Structure Assignment is Cyclic. *Linguistic Inquiry* 10, 421–41.
- 小林泰秀. (2001) 「英語の音節構造は両音節性か再音節性か」『広島女学院大学大学院言語文化論叢』第4号, 1–28.
- 小林泰秀. (2002) 「英語辞典にある日本語の発音 (1)——『研究社新英和大辞典』より——」『広島女学院大学英語英米文学研究』第10号, 39–69.
- Lieberman, M. and A. Prince (1977) On Stress and Linguistic Rhythm. *Linguistic Inquiry* 8, 249–336.
- Selkirk, E. O. (1982) The Syllable. *The Structure of Phonological Representations (Part II)*, ed. by H. v. d. Hulst and N. Smith, 337–83. Foris.